

名古屋市主催

名古屋市内の介護サービス事業所等に対するBCP策定支援事業

BCP策定後支援講座

2024年10月 4日(金) 13:30 – 15:30

2024年11月29日(金) 13:30 – 15:30

【事務局】

MS&ADインターリスク総研株式会社

MS&AD MS&ADインシュアランスグループ

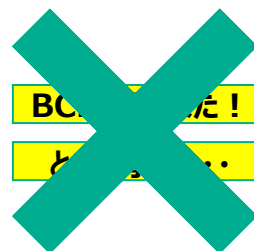
事務局の概要

商 号	MS&ADインターリスク総研株式会社 (MS&AD InterRisk Research & Consulting,Inc.)
本 社	東京都千代田区神田淡路町2-105 ワテラスアネックス (10～11階)
株 主	M S & A D インシュアランスグループホールディングス株式会社 三井住友海上火災保険株式会社 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 M S & A D インシュアランスグループ各社
設立年月日	1993年（平成5）年1月4日
資本金	3億3,000万円
売上高	48億1,500万円（2022年4月1日～2023年3月31日）
取締役社長	一本木 真史
役職員数	410名（2024年4月1日現在、海外拠点含む）
事業概要	コンサルティング、受託調査研究、セミナーの開催/講師派遣、出版

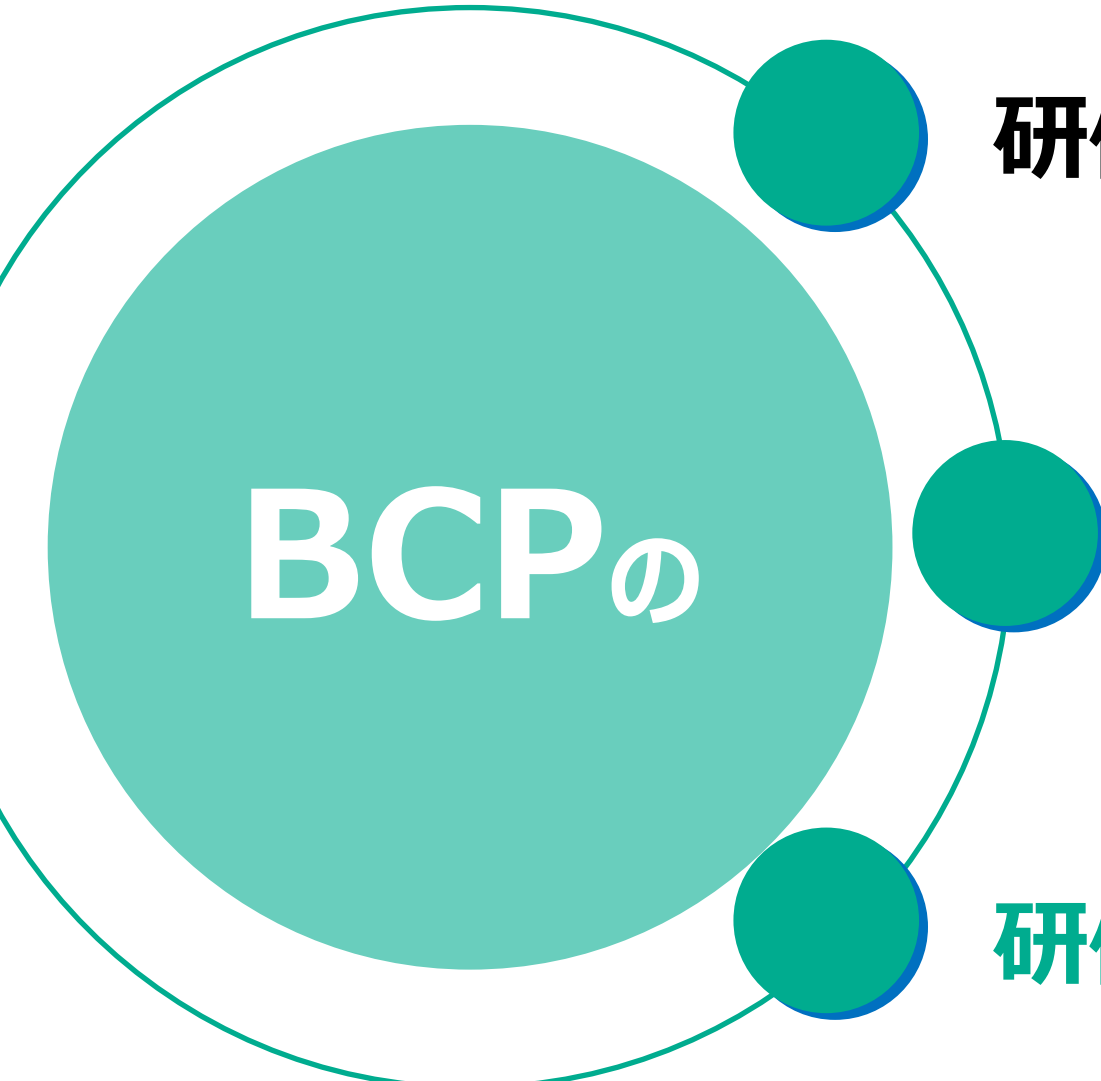
The diagram illustrates the MS&AD Insurance Group's structure. At the center is a globe with a circular arrow around it labeled "MS&AD インシュアランスグループ". Surrounding the globe are five blue spheres representing different business areas: "国内損害保険事業" (Domestic Damage Insurance Business), "国内生命保険事業" (Domestic Life Insurance Business), "海外事業" (Overseas Business), "リスク関連サービス事業" (Risk-Related Services Business), and "金融サービス事業" (Financial Services Business). Each sphere is connected to a central box labeled "MS&AD インターリスク総研" (MS&AD InterRisk Research & Consulting). The "国内損害保険事業" sphere is further connected to a list of companies: あいおいニッセイ同和損保, 三井住友海上, and 三井ダイレクト損保. The "国内生命保険事業" sphere is connected to a list of companies: 三井住友海上あいおい生命 and 三井住友海上プライマリー生命.

年度	厚生労働省案件における実績（福祉分野）
令和元年度	社会福祉施設等におけるBCPの有用性に関する調査研究事業
令和2年度	介護サービス類型に応じた業務継続計画（BCP）作成支援業務一式
	障害福祉サービス類型に応じた業務継続計画（BCP）作成支援業務一式

BCP策定完了



BCP実行可能



BCPの

研修方法の理解

訓練方法の理解と、自施設で訓練を
実施する際の**具体的なイメージ構築**

研修・訓練の実施へつなげる

本講座の進め方

Contents

I BCP研修のポイント

II BCP訓練のポイント

III 自然災害BCP訓練の演習

IV 感染症BCP訓練の演習

まとめ

I BCP研修のポイント

II BCP訓練のポイント

III 自然災害BCP訓練の演習

IV 感染症BCP訓練の演習

まとめ

研修の目的は、自然災害、および感染症**BCP**の具体的な内容を、職員間で共有すること。



▶ 研修目的

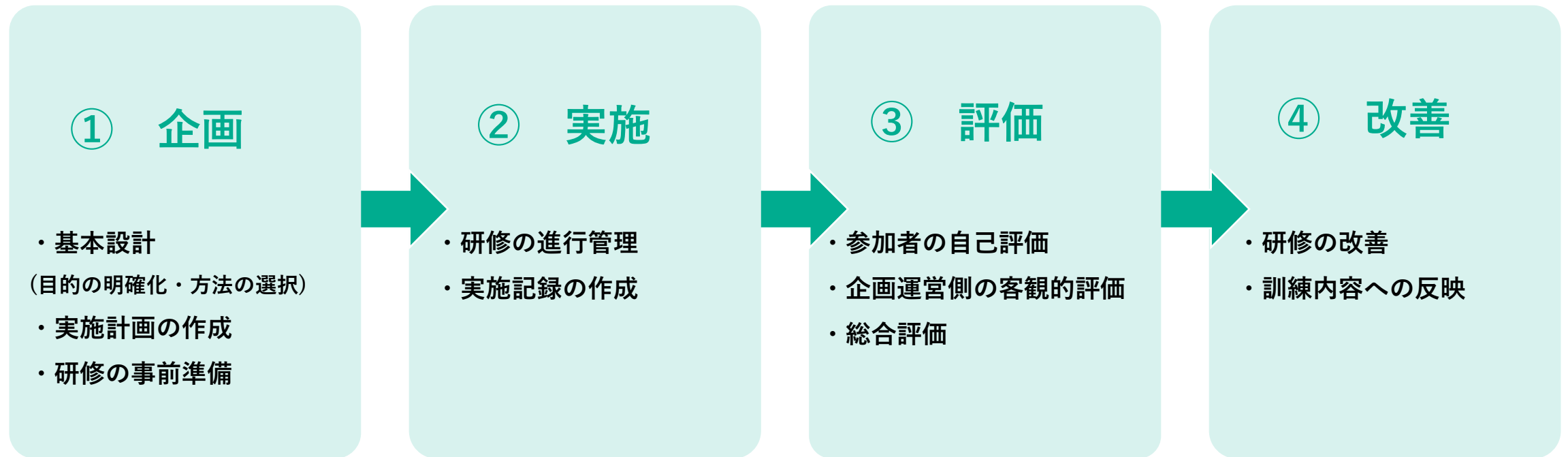
例1) BCPを理解してもらう

例2) BCPに関連する知識や技術を身に付けてもらう

▶ 実施方法

講義、ワーク形式、オンデマンド、eラーニング等

- ① 感染症及び災害に係る業務継続計画の具体的内容を職員間に共有する
 - ② 平常時の対応の必要性や、緊急時の対応にかかる理解の励行を行う
- 職員教育を組織的に浸透させていくために、
 - ✓ 定期的（年2回以上）な教育を開催する ※在宅系は年1回以上
 - ✓ 新規採用時には別に研修を実施する
 - ✓ 研修の実施内容についても記録する
 - 感染症の業務継続計画に係る研修については、感染症の予防及びまん延の防止のための研修と一体的に実施することも差し支えない。





研修企画で策定すべき項目とポイント

策定項目	ポイント
1 科目・テーマ	研修方針や年度の重点目標を念頭にテーマを設定する。
2 研修の目的	はじめに目的を短い文で箇条書きにしてみる。要点を明らかにすることが大事。
3 研修の到達目標	目的とともに、到達目標を必ず設定する。講師との打ち合わせが円滑になる。
4 日時	ローテーション職場では夜間開催が参加率を高める。その際、出席が勤務にあたるのか、自主参加かを明確にする。なお、OFF-JTは勤務として行う研修を指す。
5 会場	職場内の会議室等で行うのが一般的。研修内容や参加者数により、教室形式以外のレイアウトや茶菓子を用意する等、アットホームな雰囲気演出するとよい。
6 対象者	職場内の集合研修は、日常的な研修の機会の少ない非常勤職員やパート職員にとって有効。積極的に参加を促す仕組みを整えたい。
7 参加人数(規模)	職場内での集合研修は、参加者が顔見知りのこともあり、個性や役割(力関係)が固定化されている場合が多い。少人数の参加が多いので、全員が発言できる工夫が大切。
8 講師(指導者)	外部講師の場合は、緊急連絡先(携帯電話番号)を必ず聞いておく。外部講師を招いた研修はP43を参照。
9 タイムテーブル	60分に1度は休憩をプログラムに入れたい。勤務明けは疲れているため、リラックスして受講できる配慮が大切。
10 活用する研修技法 (具体例はP40、41参照)	研修目的を実現するために効果的な研修技法を組み合わせる。講義法の他にグループ討議等の参加型技法を組み合わせると意欲が維持できる。
11 費用(講師謝金等)	講師謝金は法人の報酬基準を決めておく。
12 教材、教具	外部講師の場合は、用意するのは講師か主催者(事業所)か等の役割分担を確認する。
13 評価・フォローアップの方法	参加者アンケートで受講者の習得度を測る。後日、上司コメントを得ることや発表会を行うことも方法。
14 担当者	事務担当者を明確にする。

▶ 目的の明確化

- 誰に？
- 何を？
- 学んでほしいのか？

例) レベル1：BCPの概念概要の理解
施設のどこにBCPが置いてあるのか
報告ルート・報告基準の理解

レベル2：BCPの初動対応の理解
優先業務の理解

研修技法	概要	長所	短所
講義法	知識や情報を修得する	効率よく知識を習得できる	単調になりがちである
討議法	問題解決能力等を養う	主体的な参加で気づきが得られる	知識の習得の効率性は劣る
理解促進 討議法	テストと討議で、原理原則の理解を深める	討議法より知識の習得や気づきに優れている	テスト問題を作る手間がかかる
事例研究法	事例討議で疑似体験や原理原則を確認する	課題分析に優れている	事例を考える手間がかかる
ロールプレイング	基本動作や応用動作等の技術向上を図る	動作確認に優れている	知識の習得には不向きである
研修ゲーム	ゲームを通じて、体験的に技術向上を図る(手法は次頁を参照)	体験による満足感が高い	ゲームを自前で作るのは難しい
自己診断法	チェックリスト等を活用して、自己認知を深める	客観的に理解できる	チェックリスト作成は手間がかかる
その他の技法	見学、実習等		

【研修技法を組み合わせた研修形態の例】

1	オリエンテーション	基礎講義	個人ワーク ・課題を分析(自己診断法・事例研究法など使用)	グループワーク ・個人ワークの結果を持ち寄り討議	まとめ	【講義先行A型】 講義で効率的に知識を習得し、ワークで具体化。基本的な形態。
2	オリエンテーション	基礎講義	グループワーク	個人ワーク ・討議結果を受けて個人でまとめる	まとめ	【講義先行B型】 講義の後、討議で課題を浮き彫りにして、個人ワークでまとめる。
3	オリエンテーション	グループワーク ・具体的な取り組みを交換	個人ワーク ・討議結果を受けて個人でまとめ	講義 ・課題整理、まとめの講義	まとめ	【ワーク先行型】 難解なテーマのときに有効。体験から抽象化し理解に至る形態。
4	オリエンテーション	個人ワーク ・振り返り	講義 ・具体的な講義を心がける	グループワーク ・討議で理解を深める	まとめ	【内省先行型】 研修意欲が低い時や馴染みのないテーマを扱う場合に有効。

方法の選択

- 研修の目的やねらい、テーマの難易度、参加者のレベル・意欲、参加人数等に応じて**研修技法を組み合わせる**

講師

- テーマに応じた講師の選定
- 研修テーマに応じて、外部講師や**eラーニング**等の活用も有用

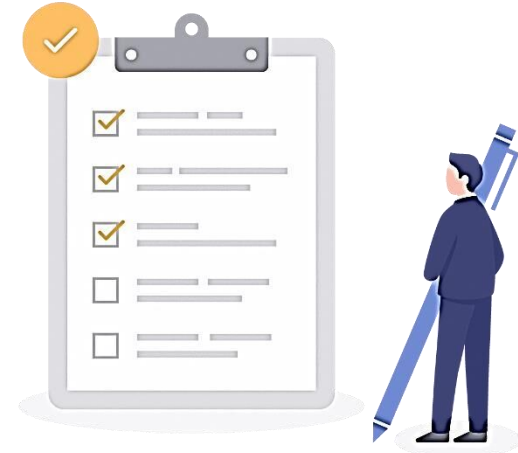
▶ 進行

- 進行具合に気を配る
- 参加者の反応を確認しながら進行する

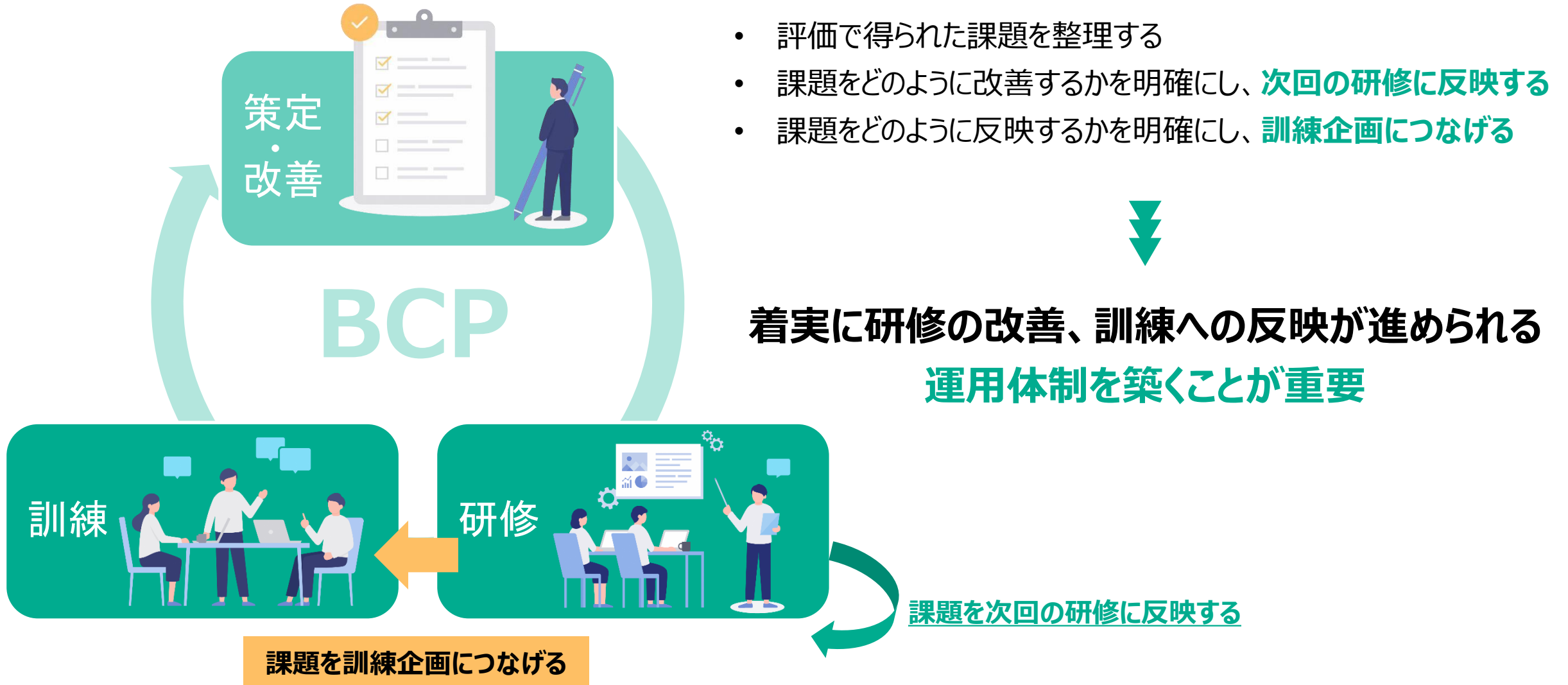


▶ 実施記録

- 実施内容の記録を残し、適切に保管する







I BCP研修のポイント

II BCP訓練のポイント

III 自然災害BCP訓練の演習

IV 感染症BCP訓練の演習

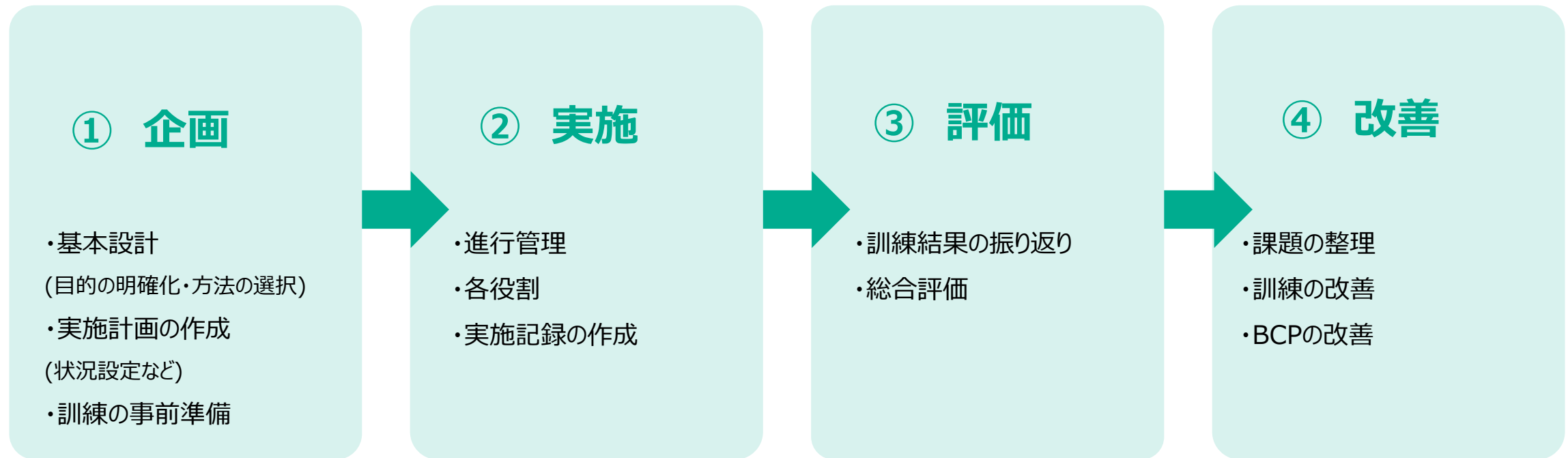
まとめ

- ・ 自然災害/感染症発生時に、**迅速かつ適切に行動できるようにすること**
- ・ BCPをより実効性の高いものにするため、**課題を洗い出し、BCPの改善につなげること**



感染症や災害が発生した場合において迅速に行動できるよう

- ✓ 業務継続計画に基づき、
 - ①施設内の役割分担の確認
 - ②感染症や災害が発生した場合に実践するケアの演習等
- ✓ 定期的（年2回以上）に実施する ※在宅系は年1回以上
- 感染症の業務継続計画に係る訓練については、感染症の予防及びまん延の防止のための訓練と一体的に実施することも差し支えない。
- 災害の業務継続計画に係る訓練については、非常災害対策に係る訓練と一体的に実施することも差し支えない。



① 訓練の企画

▶ 目的の明確化

- 誰に？
- 何を？
- 学んでほしいのか？ / どのような行動をできるようになってほしいのか？

例) レベル 1 : 決められたことを確実にできるようにする(BCPの範囲内)

レベル 2 : やるべきことを柔軟に発想できるようにする(BCPの範囲外)

▶ 訓練方法の選択

- “目的” + “参加者のBCPに関する習熟度”に適した方法を選択する

例)

実動訓練

机上訓練

実動 + 机上訓練の組み合わせ



①訓練の企画

▶ 訓練方法の選択（つづき）

- 各訓練方法の特徴

	実動訓練	机上訓練
特徴	- 自然災害においては避難、感染症においてはゾーニング等、実際に人や物を動かして実施する訓練 - 現場において実際に練習を行い、技術の習得・習熟を図る	- 口頭や文書により机上で進行する訓練 - 状況を想定したシナリオに沿って、情報共有や意思決定等ができるか検討
メリット	- 実際にかかる時間等、机上訓練では見えない課題の明確化ができる - 対応方法により実際の習得・習熟が期待できる	- 最小限のメンバーで実施可能 - 短時間で多くの項目の検討ができる
適する目的	- 現場の状況や実際にかかる時間等、机上訓練では見えない課題の明確化 - 現場での対応方法の習得・習熟	- 策定したBCPの確認及び改善 - BCPの手順の理解 - 災害/感染症発生時への意識の醸成
内容と方法	- 対策本部の立ち上げ - 緊急連絡網訓練等、発生場面を設定した一連の対応訓練 - 感染症BCPの場合は、感染者発生時の隔離方法、ゾーニングの実施訓練 等	- 利用者、職員の安全確保・安否確認 - 時系列での役割分担の確認 - 計画の手順や優先順位の確認 - 具体的な場面設定や想定の下、計画の実施可否の検討 等

① 訓練の企画

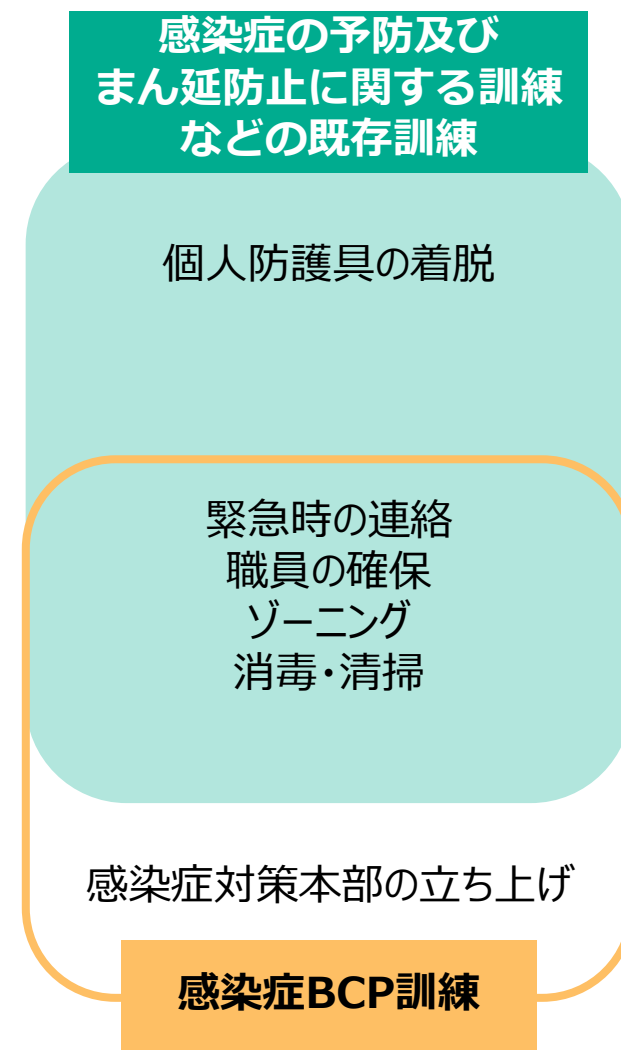
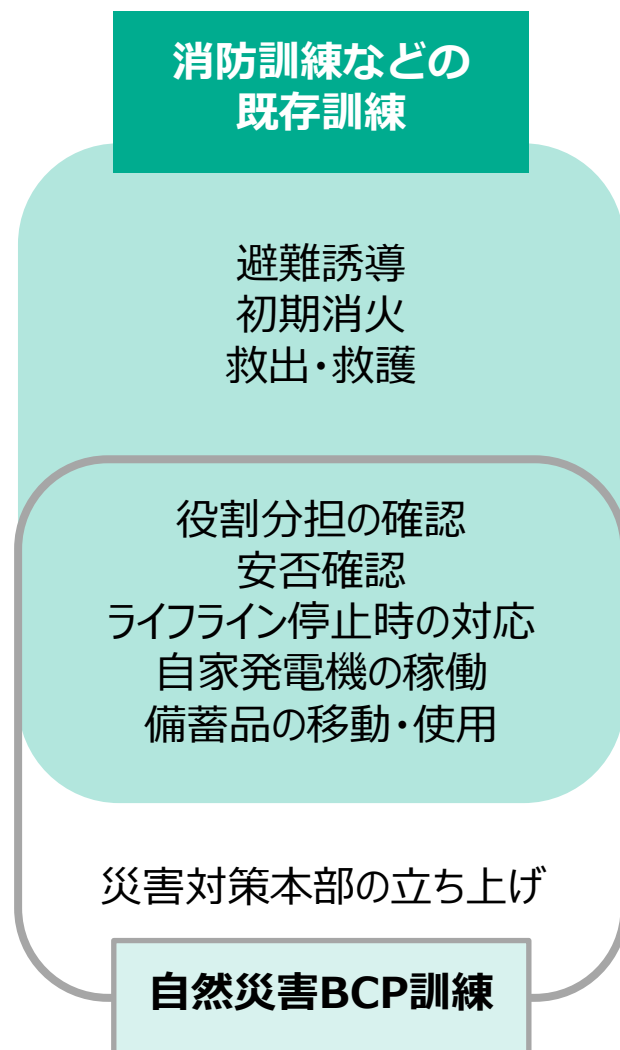
▶ 実施計画

- テーマ（参加者に取り組んでほしい具体的な課題）の設定
→ 評価可能な課題設定が重要
- 自然災害時の被害/感染症発生時の影響の設定
→ リアリティが重要
→ 施設の経営・運営にとって対応すべき 優先順位の高い状況設定が重要
- シナリオ（時系列的変化）、プレイヤー（参加者の役割となる登場人物）、状況付与の設定
→ 目的・テーマが達成できる設定をすることが重要
→ 参加者が どのような情報分析を行うことをねらいとするか、明確にする

▶ 訓練の事前準備

- 運営準備
- 参加者に対する 事前の周知
→ 事前にBCP及び訓練概要を伝え、理解を深めておいてもらう

▶ 既存訓練と一体的な実施



②訓練の実施(机上訓練_ワークショップ訓練)

▶ 訓練の進行

- ・ **参加者に実施方法やルールの周知徹底する**
 - 目的・テーマに応じたグループ編成を行うことが重要
 - 訓練開始前に、訓練の目的・テーマ、前提条件、訓練内での役割、訓練のルール、スケジュールの理解を徹底する

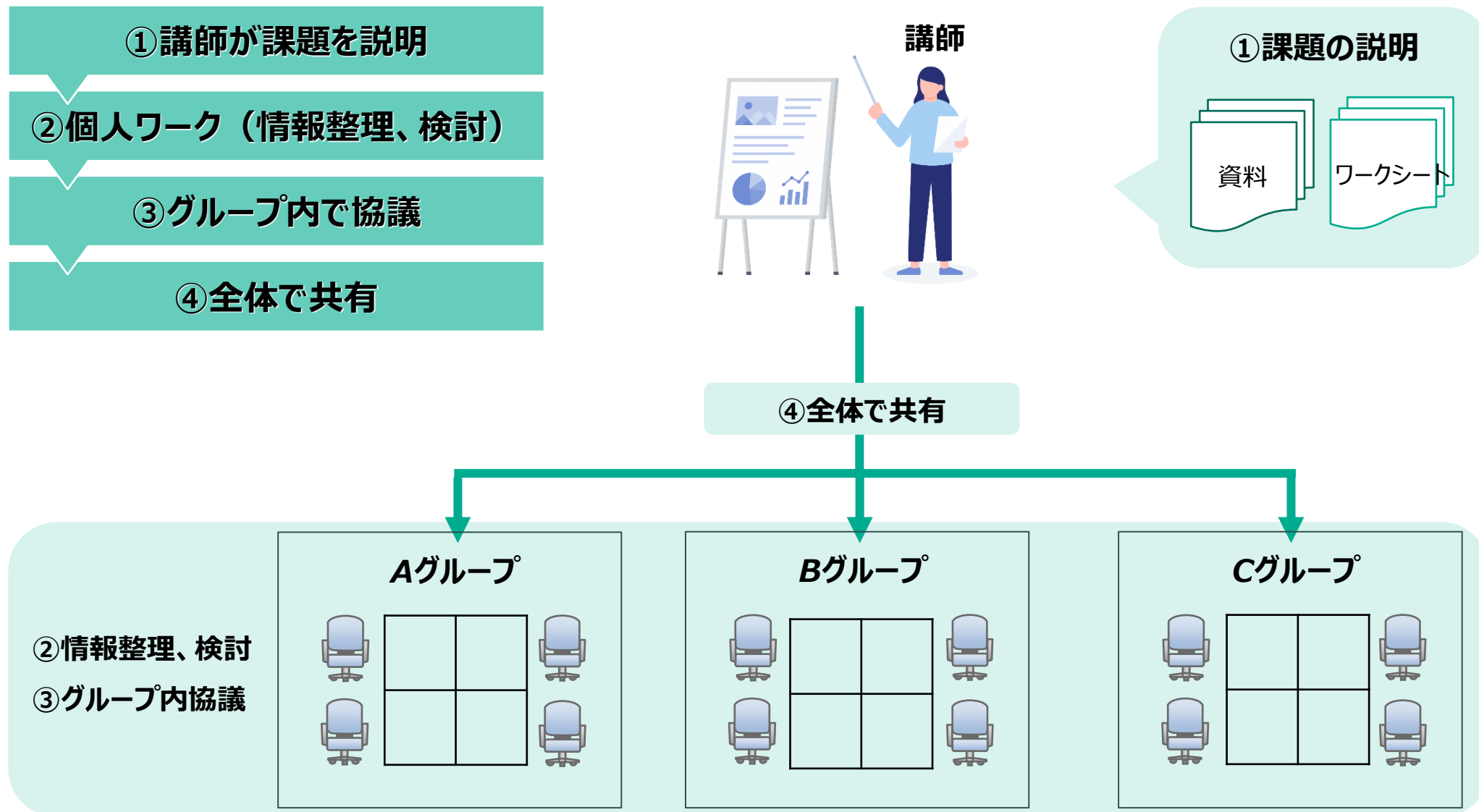
▶ 各役割

- ・ **進行者**：参加者の発言を引き出す
- ・ **参加者**：情報を分析・推定してグループとしての対応を検討していく
- ・ **参加者への助言者**：訓練を円滑に行うため、参加者へ助言、誘導を行う

▶ 実施記録

- ・ **実施内容の記録を残し、適切に保管する**

②訓練の実施(机上訓練_ワークショップ訓練)



③ 訓練の評価

▶ 訓練結果の振り返り

- 訓練終了時に参加者全員で意見交換する
→決まった形式はなく、自由に発言できるように進める
- 訓練内の対応について、他グループの発表も踏まえBCPの改善の余地を検討する
→外部の専門家等の活用も有用
- 訓練自体の評価、検証も行う
→次回の訓練につなげる

▶ 総合評価

- **参加者の自己評価**：定量的(点数化)方法と、定性的(自由記述)方法がある
集計後の目的や活用方法に照らして項目を設定する
- **企画・運営側の客観的評価**：訓練目的やテーマの達成状況に対する評価と、参加者の行動に対する評価などがある
- **訓練結果の比較**：評価指標を統一することで、前回(または次回)の訓練結果や他訓練との比較も可能



BCPの課題の抽出

④ 訓練の改善



▶ 訓練の改善

- 訓練自体の課題は、担当者内でどのように対応するか明確にし、次回訓練企画に反映する

▶ BCPの改善

- 課題点についての対策は、優先順位をつけ、いつ、誰が実施するかを明確に計画し、進捗管理する
→着実に対策が進められる運用体制を築くことが重要
- 対策を講じた項目は次回の訓練で対策が十分か検証する

I BCP研修のポイント

II BCP訓練のポイント

III 自然災害BCP訓練の演習

IV 感染症BCP訓練の演習

まとめ

▶ 課題の説明

講師から課題について説明します。

▶ 自己紹介（3分）

グループはサービス種別毎（入所・通所・訪問・その他【居宅支援】）となっています。

施設名、役職、名前、好きな食べ物を共有してください。

リーダー（発表者）、書記（オンラインは不要）を決めてください。

▶ グループで検討（15分）

提示された課題についてグループ内で議論します。

参加者全員で考え、意見交換してください。

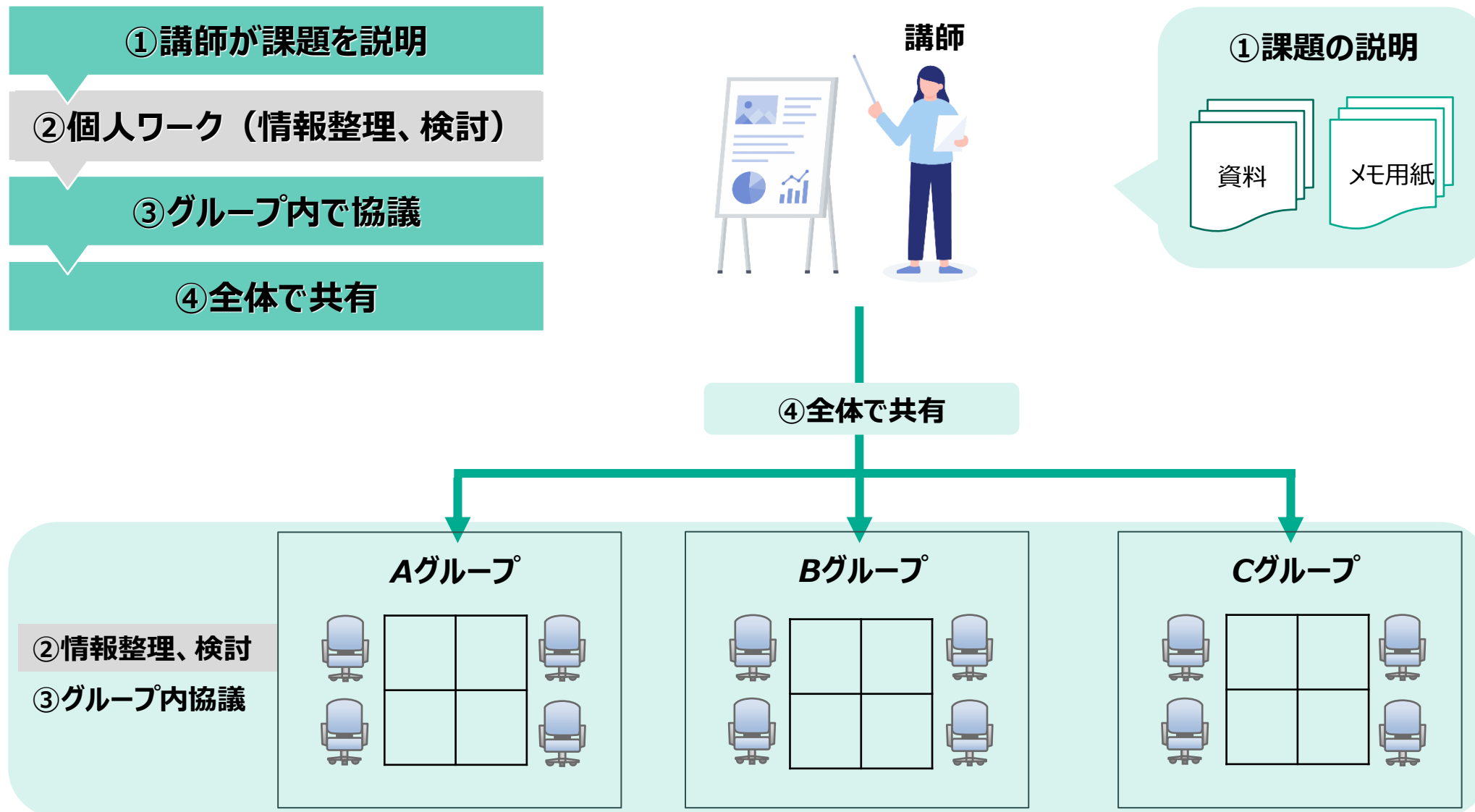
全体への発表のため、意見をまとめてください。

▶ 発表

演習後、1～2組のグループに発表していただきます。

▶ 解説

コーディネーターから課題について解説します。



皆さんは、「なごやの里（架空の施設）」の管理者という設定です。
管理者になりきって、この後出されるワークについて検討してください。

施設概要

■ 施設名	特別養護老人ホーム なごやの里
■ 入所者定員	1 0 0 名
■ 日勤職員数	5 0 名
■ 施設建屋	新耐震鉄筋コンクリート造 5 階建て
■ 併設事業所	通所介護、訪問介護、居宅介護支援事業所

ワーク内容

“地震発生後において、各業務の具体的な継続方法をシミュレーションしましょう”

13時30分に大地震が発生し、2時間が経過しています。徐々に被害の状況が明らかになってきました。

□日時：10月4日（金）の15:30

□震度：最大震度 7（複数の市区町村） □名古屋市内の震度：6弱

□ライフライン

◆電力：停電 ◆上水道：断水 ◆下水道：使用不可 ◆都市ガス：供給停止

◆電話：キャリアによる通信制限により非常につながりにくい状態。SNSによる通信は可能

◆鉄道：運転見合わせ

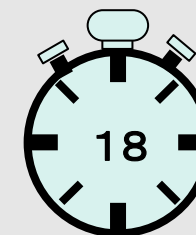
検討事項

下記の①もしくは②のどちらかを選択し、業務継続(実施)方法を検討してください。

平時と異なる点を意識しながら、「どのように」という手順をできるだけ具体的に考えてください。

①非常時における食事の提供

②非番職員の安否確認



※①もしくは②のどちらかを選択

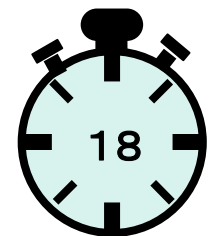
①非常時における食事の提供

- 電気・水道・ガスが止まっていますが、調理・配膳はどのように行いますか？
- 食形態に合わせた食事の提供・介助は可能でしょうか？
- 備蓄の量はどれくらい必要でしょうか？

②非番職員の安否確認

- 電気・通信が不通の際、どのような手段で連絡を取りますか？
- 翌日以降の勤務調整はどのように行いますか？
- 連絡がつかなかった職員に対してどのような対応を行いますか？

※電力について、自家発電機を施設に有しており、懐中電灯も各階に配備済みであったため、照明は確保できているという想定で議論を行ってください



① 非常時における食事の提供

- 調理器具、加熱用の水なども非常食と合わせて備蓄しておく。
- 調理方法、提供方法、保管場所などは施設全体で共有しておく。
- 備蓄の目標量と保管量を記載しておく。
例：（利用者100人＋職員50人）×3食×3日分 計1,350食

例

ゼリー食・普通食を人数×9食分備蓄している。

普通食は湯煎の必要があるため、カセットコンロを用いて調理する。

保管場所：1階倉庫 食事場所：3階食堂

エレベーターが使えないため、1階の調理場ではなく3階の会議室で調理する。

② 非番職員の安否確認

- 複数の連絡手段を用意しておき、使い方を習得しておく
- 「通信機器等で連絡がとれなかった場合」の行動方針を定め、周知しておく

例

- 基本的な連絡手段を電話とし、輻輳等で電話が使用できない場合、以下の手段にて連絡を行う。
 1. メール
 2. SNS
 3. 災害用伝言ダイヤル
- 上記のいずれの方法でも連絡がとれない場合、「なごやの里非常時行動指針」に則り、自身・家族等身の回りの安全を確保したうえで、施設に参集する。

今回の演習では以下について訓練の演習を行いました。

- ①非常時における食事の提供
- ②非番職員の安否確認

演習 1 (グループワーク)

今後、自施設で訓練する際に、どのような点が活用できそうですか？
また、課題と感じたことはどのような点ですか？



演習 1 発表・共有

- 1) サービス種別（入所・通所・訪問・その他【居宅支援】）
- 2) ①非常時における食事の提供 もしくは ②非番職員の安否確認
- 3) 内容（皆様に参考になる内容）



I BCP研修のポイント

II BCP訓練のポイント

III 自然災害BCP訓練の演習

IV 感染症BCP訓練の演習

まとめ

▶ 課題の説明

講師から課題について説明します。

▶ グループで検討（15分）

リーダー、書記は前回のワークと同じ方が担当してください（変更しても良いが、時間をかけないこと）

提示された課題についてグループ内で議論します。

参加者全員で考え、意見交換してください。

全体への発表のため、意見をまとめてください。

▶ 発表

演習後、1～2組のグループに発表していただきます。

▶ 解説

・コーディネーターから課題について解説します。

皆さんは、「なごや苑（架空の施設）」の管理者という設定です。

管理者になりきって、この後出されるワークについて検討してください。

施設概要

■ 施設名	特別養護老人ホーム なごや苑
■ 入所者定員	30名
■ 日勤職員数	15名
■ 施設建屋	新耐震鉄筋コンクリート造3階建て
■ 併設事業所	通所介護、訪問介護、居宅介護支援事業所

ワーク内容

“利用者が新興感染症に感染した場合における各業務の具体的な継続方法をシミュレーションしましょう”

□日時：11月29日（金）の9:30

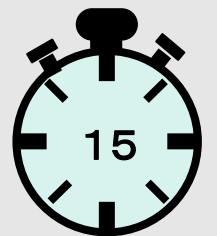
新興感染症の流行下で、ユニットAの利用者Yさん及び複数の職員が体調不良を訴えており、症状からも新興感染症の可能性が高いと考えられ、抗原検査を実施したところ、陽性であることが分かりました。

検討事項

下記の①もしくは②のどちらかを選択し、業務継続（実施）方法を検討してください。
平時と異なる点を意識しながら、「どのように」という手順をできるだけ具体的に考えてください。

①関係者への連絡

②外部から受け入れた応援職員への対応



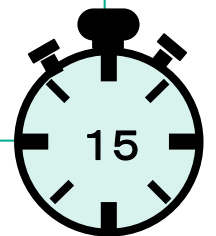
※①もしくは②のどちらかを選択

①関係者への連絡

- どのような連絡先があるでしょうか
- それぞれの連絡先に、どのような方法で、どのような内容を連絡しますか
- 連絡をするタイミングや担当者は決まっているでしょうか

②外部から受け入れた応援職員への対応

- 応援職員にはどのような業務を依頼しますか
- 受入れに当たって伝えなければならないことは何がありますか



①関係者への連絡

- 連絡先としては、施設・自法人内、保健所・指定権者、感染者の家族、感染者以外の家族等が挙げられますが、伝えるべき内容（伝えるべきでない内容）やタイミングは異なります。
- 伝える内容としては、感染者の個人情報、感染者の普段の状況・病状・経過、感染拡大リスクの範囲等が考えられます。
- 連絡先、連絡内容、タイミング等を、わかりやすい形でまとめておきましょう。

①関係者への連絡

例 1

誰が 連絡者	いつ タイミング	どこに 連絡先	何を	どのように	留意点
担当者	即時	施設長または代行者	感染疑い者の情報	電話	夜間でも異変に気付いたら
担当者	即時または 夜間、要判断	医療機関、 受診・相談センター	感染疑い者の情報	電話	施設長に連絡後
施設長	連絡後即時	施設内	BCPの発動 参集依頼	電話 LINE	BCPの発動判断 医療職参集判断
施設長	連絡後即時	法人（窓口）	感染疑い者の情報	電話	
施設長	即時または、 朝一番	保健所、指定権者	感染疑い者の情報	電話	
施設長・ 責任者	即時または、 朝一番	相談支援事業所	感染疑い者の情報	電話	
施設長・ 責任者	即時または、 朝一番	当該利用者が 利用する他のサービス	感染疑い者の情報	電話	

①関係者への連絡

例 2

職員	勤務リーダー	施設長	看護師
体調不良者発見後 勤務リーダー 看護師へ報告：PHS			
報告内容			
☐ 利用者氏名 ☐ 経過 ☐ 症状・状況	↓		↓
	状況確認後 施設長へ報告：PHS		病状確認後 施設長へ報告：PHS
	報告内容		報告内容
	☐ 対応状況 ☐ 担当職員 ☐ 他に症状のある利用者、職員の有無	↓	☐ 体温 ☐ 酸素飽和度 ☐ 症状 ☐ 受診の必要性
	当該利用者家族への連絡を指示	報告内容より状況を判断 勤務リーダー 看護師へ指示：PHS	医療機関への連絡を指示
	当該利用者家族へ 連絡：電話後、メール又は文書送付	施設内、法人へ報告 ：イントラネット	医療機関へ連絡 ：電話
	連絡内容	報告内容	連絡内容
家族用に用意していた定型文に症状、経過、今後の対応を追加	自施設・法人用に用意していた定型文に症状、経過、今後の対応を追加		☐ 利用者氏名 ☐ 症状、バイタル ☐ 経過 ☐ 対応状況

②外部から受け入れた応援職員への対応

- 応援職員の派遣元としては、同一法人内の他施設、地域の連携する施設、退職した職員、人材派遣会社等が考えられます。
- 派遣される職員の職種も考慮する必要があります。
- 上記を踏まえ、受入時にどのような業務を依頼するか、業務実施に当たりどのような情報共有が必要か事前に整理しておきましょう。

例

依頼する業務		説明すべきこと
1	食事介助	・入所者ごとの介助方法 ・食事ケア時の感染防止対策 ・配膳・下膳の場所
2	排泄介助	・入所者ごとの介助方法 ・排泄ケア時の感染防止対策 ・排泄物の処理方法
3	消毒・清掃作業	・物品の場所、管理方法 ・消毒・清掃方法、タイミング

今回の演習では以下について訓練の演習を行いました。

- ①関係者への連絡
- ②外部から受け入れた応援職員への対応

演習 2 (グループワーク)

今後、自施設で訓練する際に、どのような点が活用できそうですか？
また、課題と感じたことはどのような点ですか？



演習 2 発表・共有

- 1) サービス種別（入所・通所・訪問・その他【居宅支援】）
- 2) ①関係者への連絡 もしくは ②外部から受け入れた応援職員への対応
- 3) 内容（皆様に参考になる内容）



別添

新型コロナウイルス感染症 感染者発生シミュレーション ～机上訓練シナリオ～

厚生労働省老健局



問 1. 感染者発生

- ▶ 2日前から体調不良で休んでいる職員Aさんから、新型コロナウイルスの検査が陽性だったと連絡が来ました。何をする必要がありますか？
 - ▶ 連絡を受けた人はどうしたらよいですか？
 - ▶ 施設長は何をしたらよいですか？

【解説】問 1. 感染者発生

- ▶ 感染者が発生したときに重要なのは、個人情報等にも十分配慮の上、その情報が必要な関係者に速やかに共有されることです。
 - ▶ 連絡を受けた人は責任者や施設長に速やかに情報を共有します。
 - ▶ 施設長は、保健所への連絡、監督庁への連絡、施設内職員への連絡、入所者・家族への連絡等がきちんと行われるよう指示します。
 - ▶ このような事案が起こった際にどのように対応するか、どのようなルートで連絡するか、各対応を行うときに誰がキーパーソンとなるかをあらかじめ検討しておきましょう。
 - ▶ 感染症に関する事項は保健所からの指示に従います。
- ▶ さらに、施設内でその他の体調不良者がいないかもチェックしておきましょう。
- ▶ もし職員Aさんに連絡がつくようなら、わかる範囲で直近の施設内の接触者や利用場所を把握するようにしましょう。可能な範囲で消毒を実施することもあります。
- ▶ 症状出現2日前からの接触者リスト、利用者のケア記録（体温、症状等がわかるもの）、直近2週間の勤務表、施設内に出入りした者等の記録を準備しておく、保健所が行う積極的疫学調査が円滑になることが期待されます。

I BCP研修のポイント

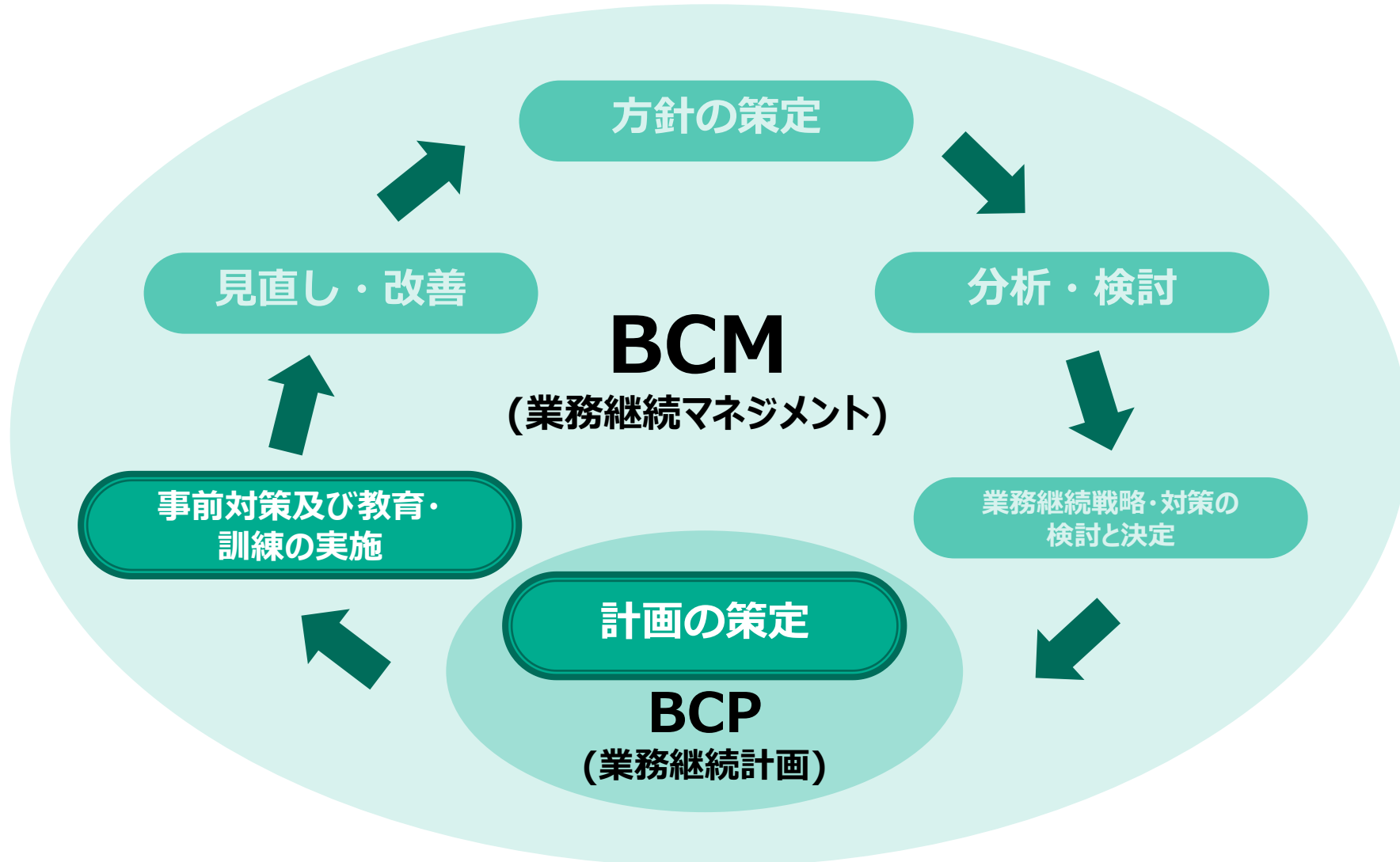
II BCP訓練のポイント

III 自然災害BCP訓練の演習

IV 感染症BCP訓練の演習

まとめ

業務継続の取組みはBCPだけでなく、BCM(Business Continuity Management)のプロセスを繰り返すことによりレベル向上を図っていくことが重要です。



BCPの

研修方法の理解

訓練方法の理解と、自施設で訓練を
実施する際の具体的なイメージ構築

研修・訓練の実施へつなげる

各事業所の個別具体的なお悩みはもちろん、講座での疑問にもお答えします。

内容

時間帯：各講座の終了後、各日**17時**迄

ご相談内容：BCP策定やBCM推進

(BCPの運用、訓練・教育、評価、見直し等)

お申込

お申込みは不要です

講座終了後にそのまま会場にお残りください。

名古屋市主催_BCP策定後支援講座にご参加の皆さまへ

本日はお忙しい中、
名古屋市内の介護サービス事業所等に対するBCP策定支援事業 BCP策定後支援講座
にご参加いただき、ありがとうございました。

最後に、本事業に関するアンケートを実施しておりますので、ご協力をお願いいたします。

以下の二次元コードからアクセスいただき、ご回答ください。

※二次元コードが使用できない等の際には、講師・スタッフまでお声掛けください



＜名古屋市内の介護サービス事業所等に対するBCP策定支援事業 事務局＞

MS&ADインターリスク総研株式会社

リスクコンサルティング本部

リスクマネジメント第四部

社会保障・医療福祉グループ